

外国籍住民向けアンケート  
調査結果

---

### ◇回答用紙の言語について

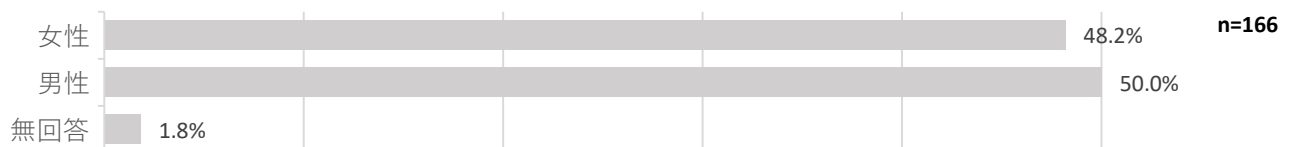
今回の調査では、外国籍住民の回答用紙について「日本語ルビ付き」と「英語」を送付した「日本語ルビ付き」での回答が11.4%、「英語」での回答が88.6%だった。



## 1. ご自身について

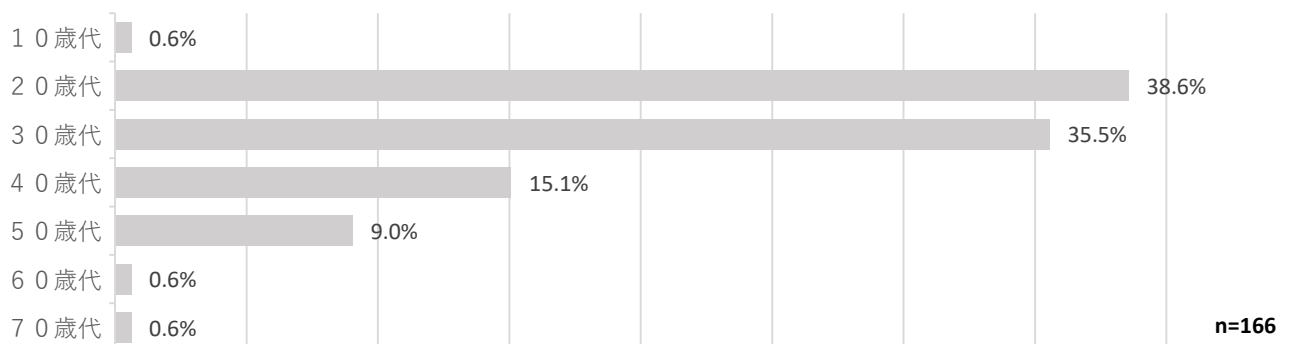
### Q1 性別について (○は1つだけ)

「女性」が48.2%、「男性」が50.0%だった。



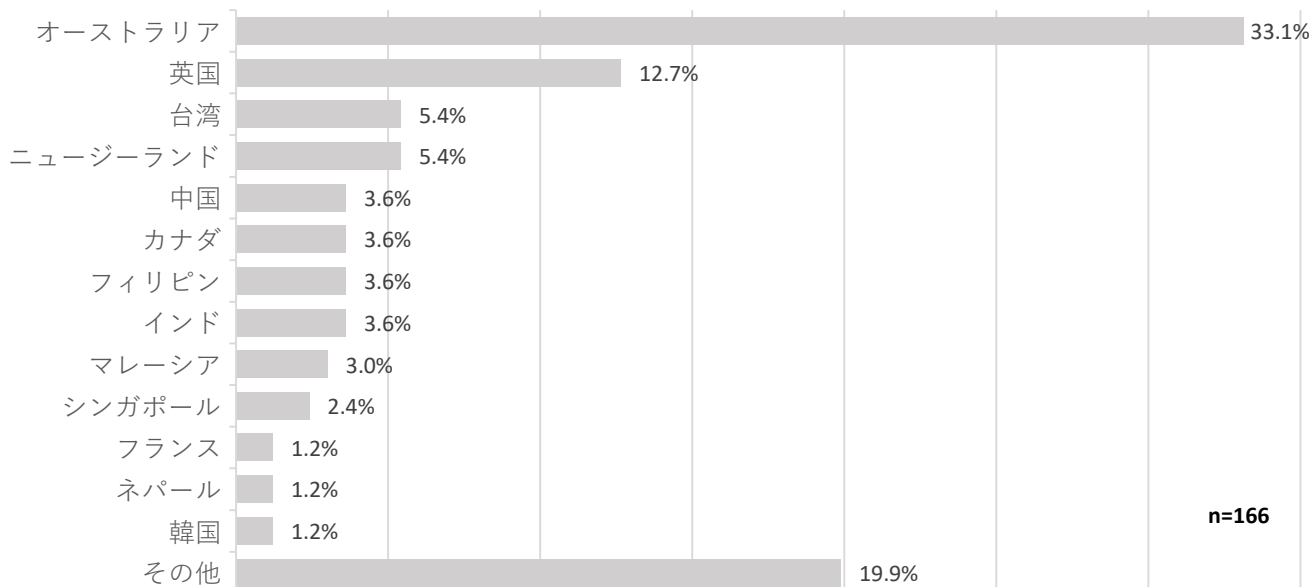
### Q2 年齢について (○は1つだけ)

「20歳代」が38.6%と最も多く、次いで「30歳代」が35.5%、「40歳代」が15.1%、「50歳代」が9.0%、「10歳代」、「60歳代」、「70歳代」は0.6%だった。



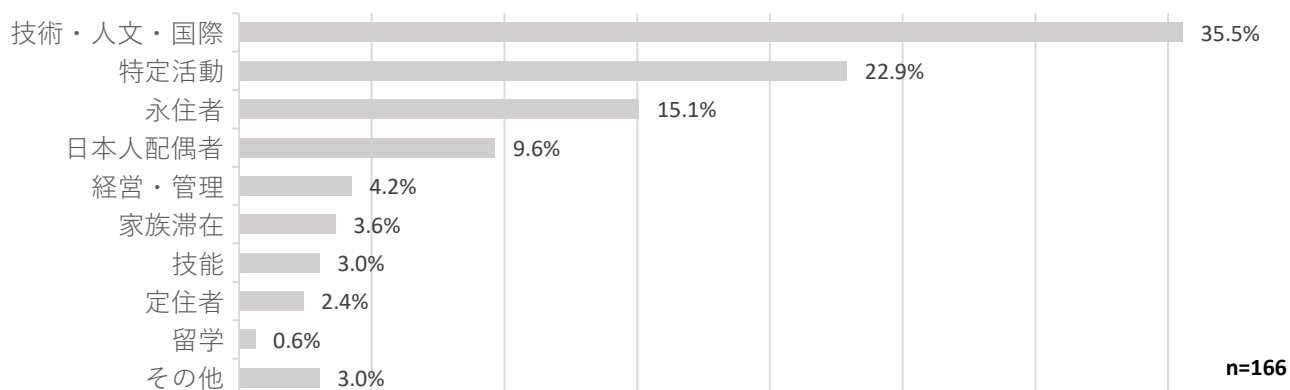
### Q3 国籍について (○は1つだけ)

「オーストラリア」が33.1%と最も多く、「英国」が12.7%、「台湾」と「ニュージーランド」が5.4%、「中国」、「カナダ」、「フィリピン」、「インド」が3.6%、「マレーシア」が3.0%、「シンガポール」が2.4%、「その他」が19.9%だった。



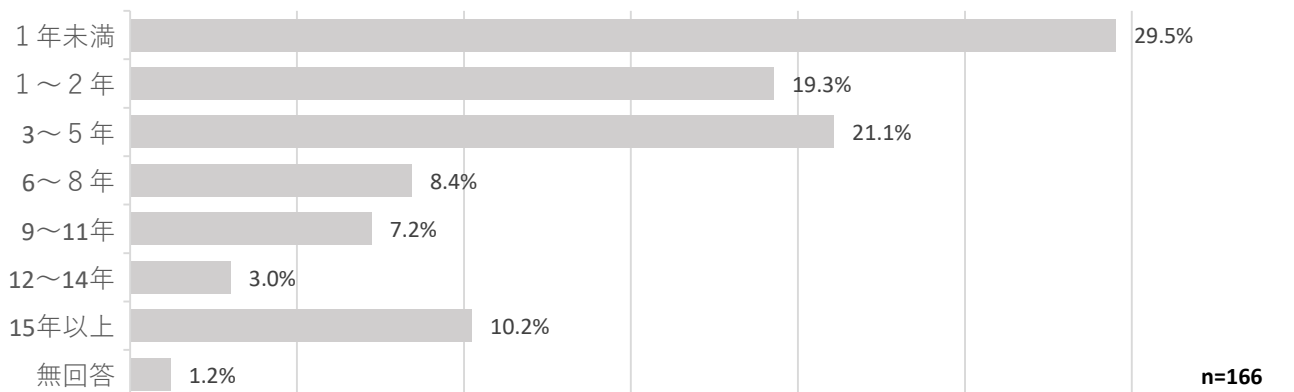
### Q4 在留資格について (○は1つだけ)

「技術・人文・国際」が35.5%と最も多く、次いで「特定活動」が22.9%、「永住者」が15.1%、「日本人配偶者」が9.6%、「経営・管理」が4.2%だった。



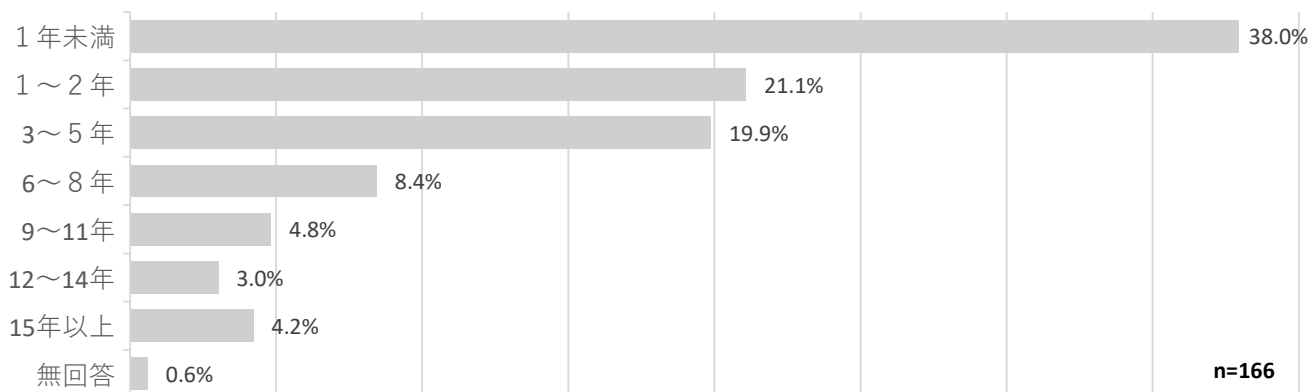
### Q5 日本に暮らした期間の合計について (○は1つだけ)

「1年未満」が29.5%と最も多く、次いで「3～5年」が21.1%、「1～2年」が19.3%、「15年以上」が10.2%だった。



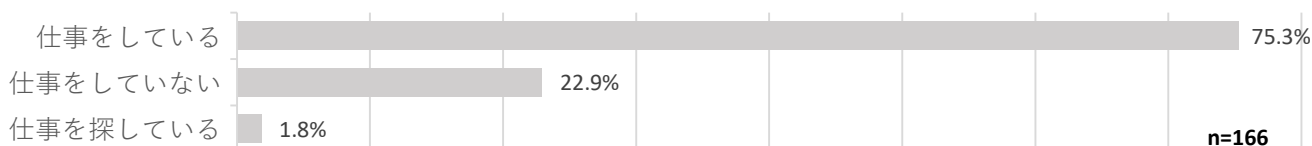
### Q6 倶知安町に暮らした期間の合計について (○は1つだけ)

「1年未満」が38.0%と最も多く、次いで「1～2年」が21.1%、「3～5年」が19.9%、「6年～8年」が8.4%だった。



### Q7 現在の就業状況について (○は1つだけ)

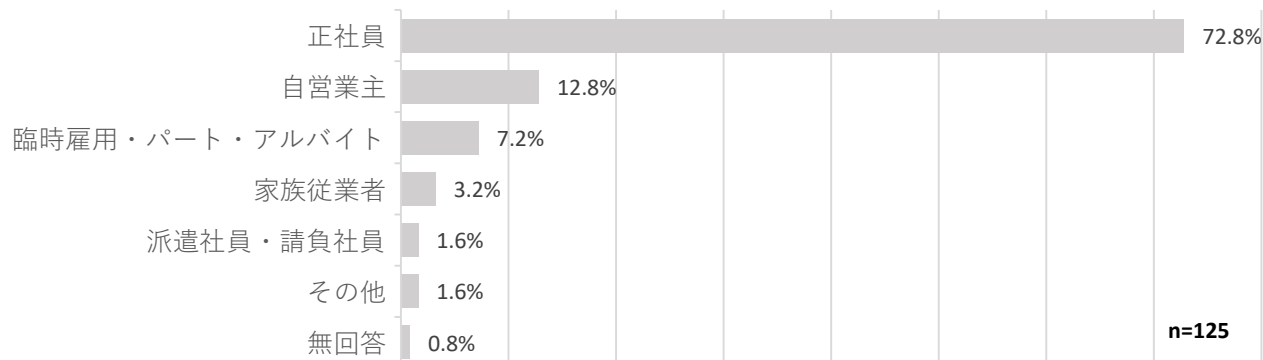
「仕事をしている」を選択したのが75.3%で最も多く、「仕事をしていない」が22.9%、「仕事を探している」が1.8%だった。



Q8～Q9は、Q7で「仕事をしている」と回答した方にうかがいました。

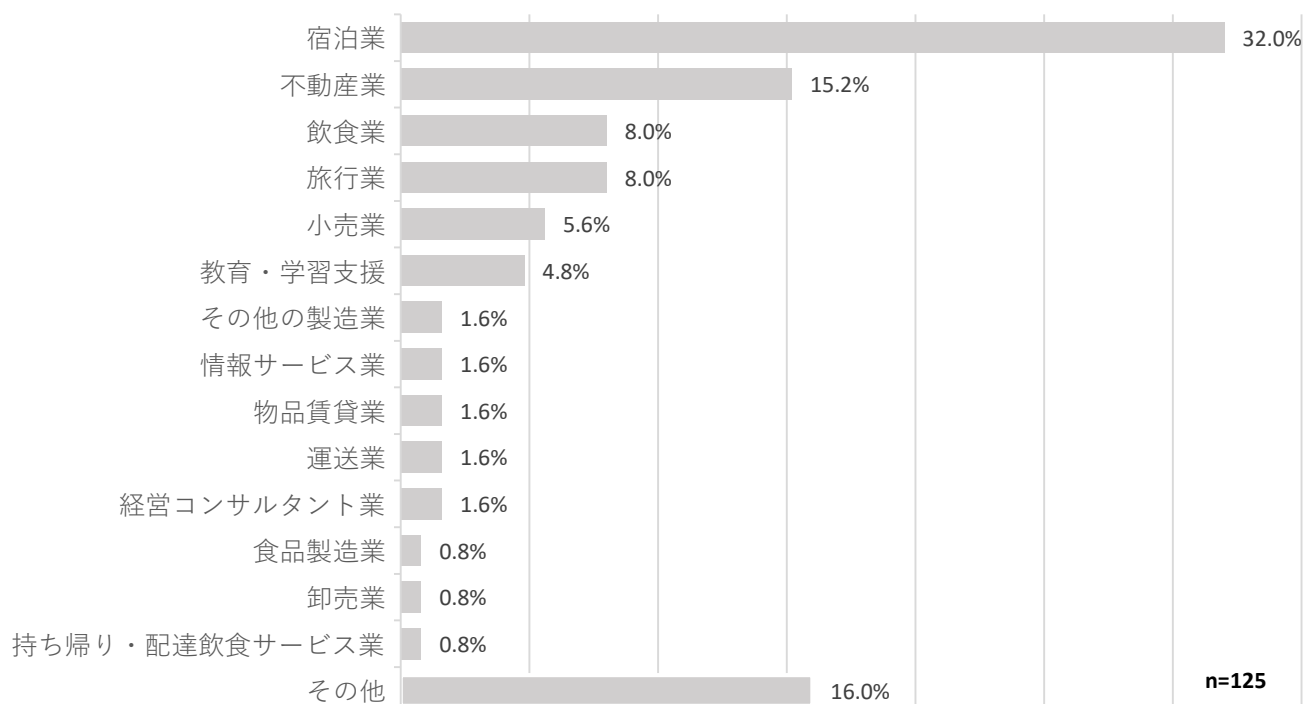
**Q8 仕事について**（○は1つだけ）

「正社員」を選択したのが72.8%と最も多く、「自営業主」が12.8%、「臨時雇用・パート・アルバイト」が7.2%、「家族従業者」が3.2%、「派遣社員・請負社員」と「その他」は1.6%だった。



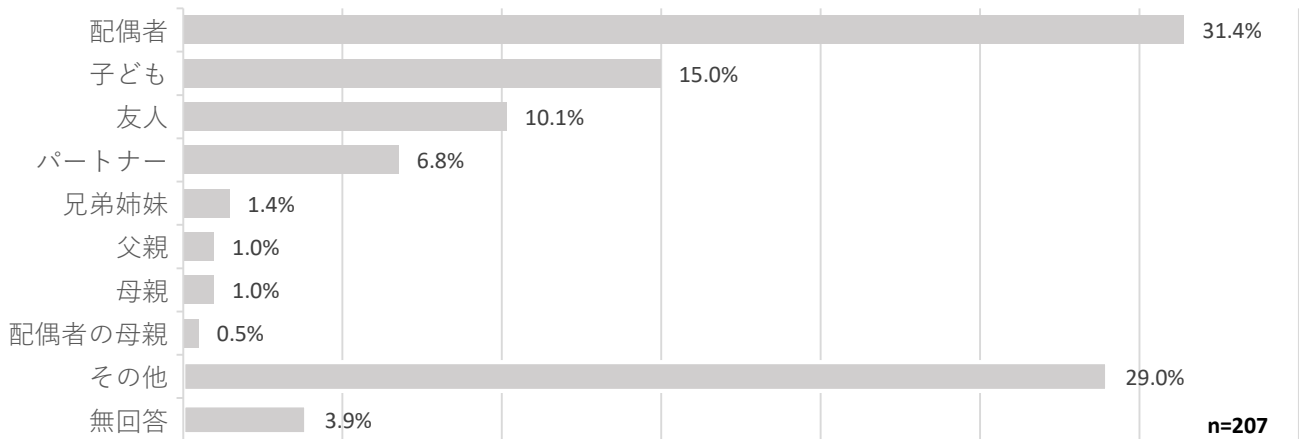
**Q9 働いている会社の種類について**（○は1つだけ）

「宿泊業」が32.0%と最も多く、次いで「不動産業」が15.2%で、「飲食業」と「旅行業」が8.0%、「小売業」が5.6%、「教育・学習支援」が4.8%だった。なお、「その他」は16.0%だった。



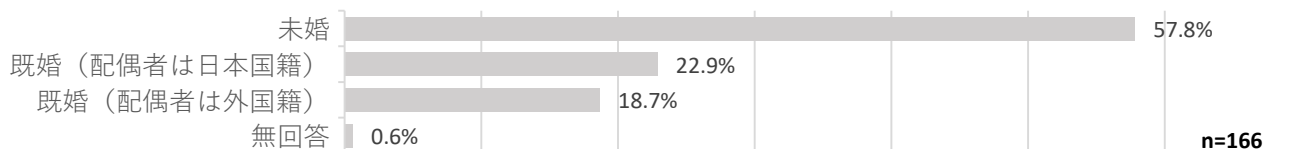
### Q10 現在、一緒に住んでいる人について (○はいくつでも)

最も多かったのは「配偶者」で31.4%。「その他」を除き、次いで「子ども」が15.0%、「友人」が10.1%、「パートナー」が6.8%だった。なお「その他」は29.0%で記載内容としては「一人暮らし」が多かった。



### Q11 結婚について (○は1つだけ)

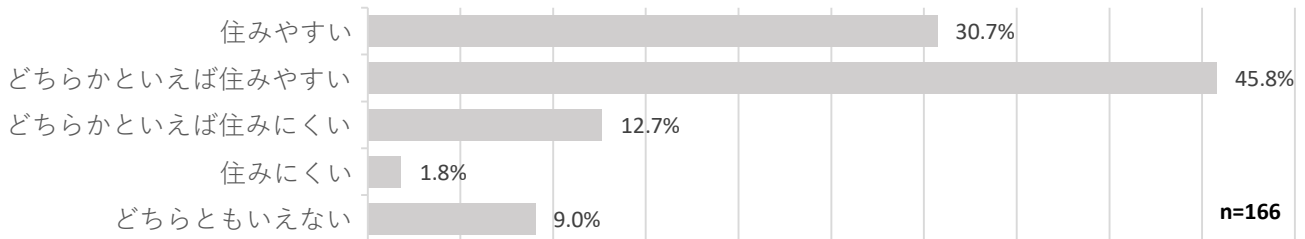
「未婚」が57.8%、「既婚」が41.6%で、既婚者のうち22.9%が「配偶者は日本人」であり、18.7%は「配偶者は外国籍」と回答した。



## 2. 倶知安町の住みやすさについて

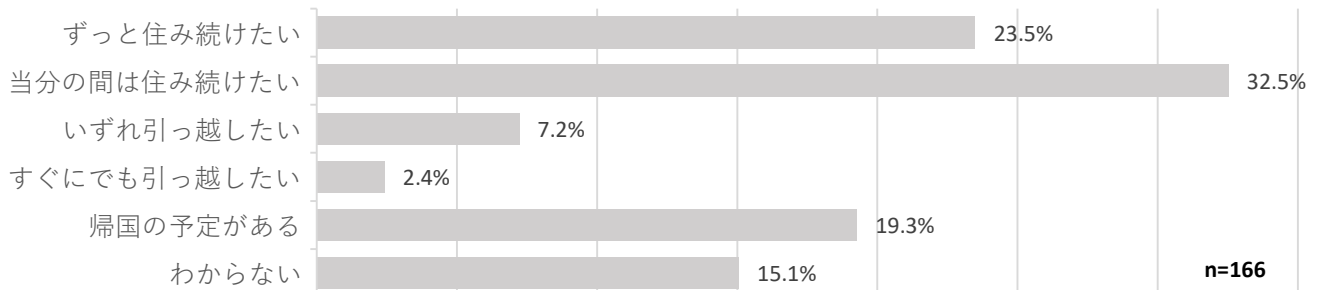
### Q12 倶知安町の住みやすさについて（○は1つだけ）

「どちらかといえば住みやすい」が45.8%、「住みやすい」が30.7%、「どちらかといえば住みにくい」は12.7%で、「どちらともいえない」が9.0%だった。「住みにくい」と回答したのは1.8%だった。



### Q13 これからも倶知安町に住み続けたいですか（○は1つだけ）

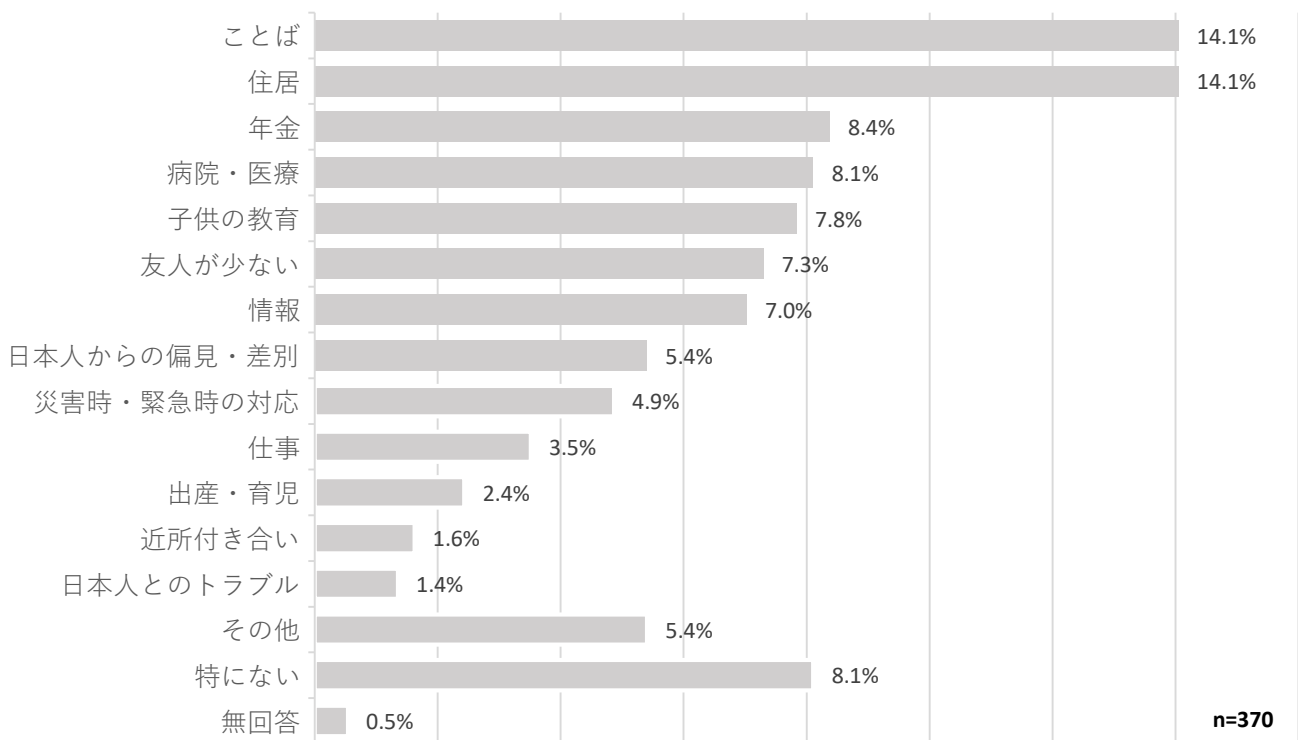
「当分の間は住み続けたい」を選択した割合が32.5%と最も多く、次いで「ずっと住み続けたい」が23.5%、「帰国の予定がある」が19.3%、「わからない」が15.1%となった。「いずれ・すぐにでも引っ越したい」を選択したのは合わせて9.6%だった。



### 3. 倶知安町での暮らしについて

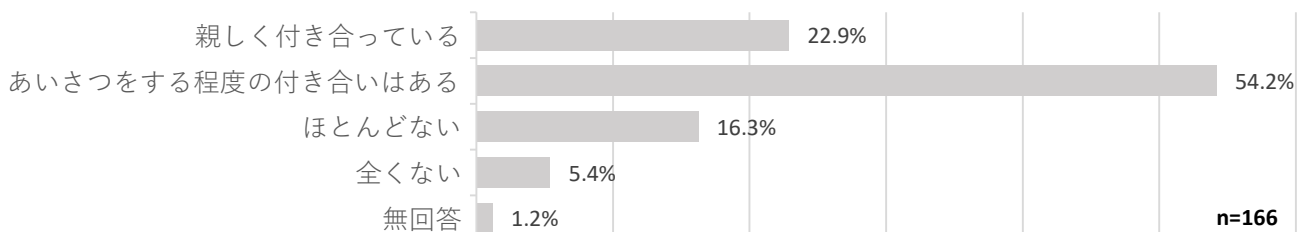
#### Q14 あなたや家族が生活で困っていることや不満なことについて（○はいくつでも）

「ことば」と「住居」を選択したのが、ともに14.1%と多く、次いで「年金」が8.4%、「病院・医療」が8.1%、「子供の教育」が7.8%で「友人が少ない」が7.3%、「情報」が7.0%だった。なお、「その他」は5.4%、「特にない」との回答は8.1%だった。



#### Q15 近くに住む日本人との付き合いについて（○は1つだけ）

「あいさつをする程度の付き合いはある」を選択したのが54.2%で最も多く、「親しく付き合っている」が22.9%、「ほとんどない」が16.3%、「全くない」が5.4%だった。

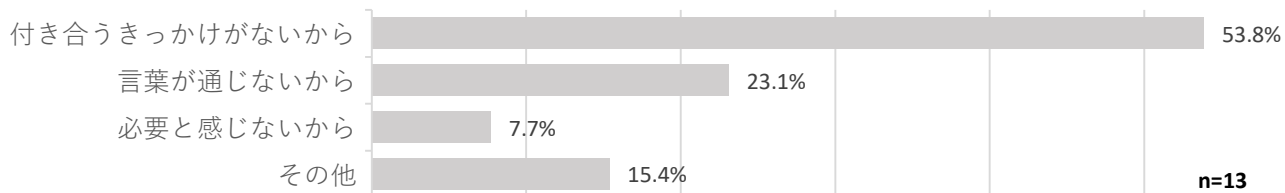




Q16はQ15で「全くない」と回答した方におたずねします。

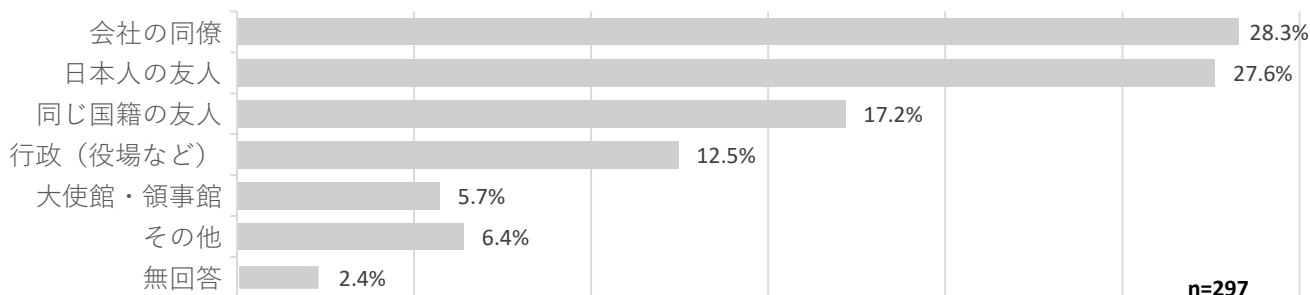
Q16 付き合いが全くない理由について（○はいくつでも）

「付き合いきっかけがないから」が最も多く53.8%で、「言葉が通じないから」が23.1%、「必要と感じないから」が7.7%、「その他」が15.4%だった。



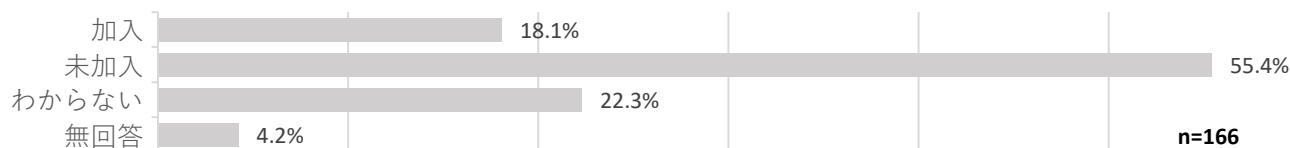
Q17 生活で困っていることの相談先について（○はいくつでも）

最も多かったのが「会社の同僚」で28.3%、次いで「日本人の友人」が27.6%、「同じ国籍の友人」が17.2%、「行政（役場など）」が12.5%だった。なお、「その他」は6.4%だった。



Q18 町内会の加入状況について（○は1つだけ）

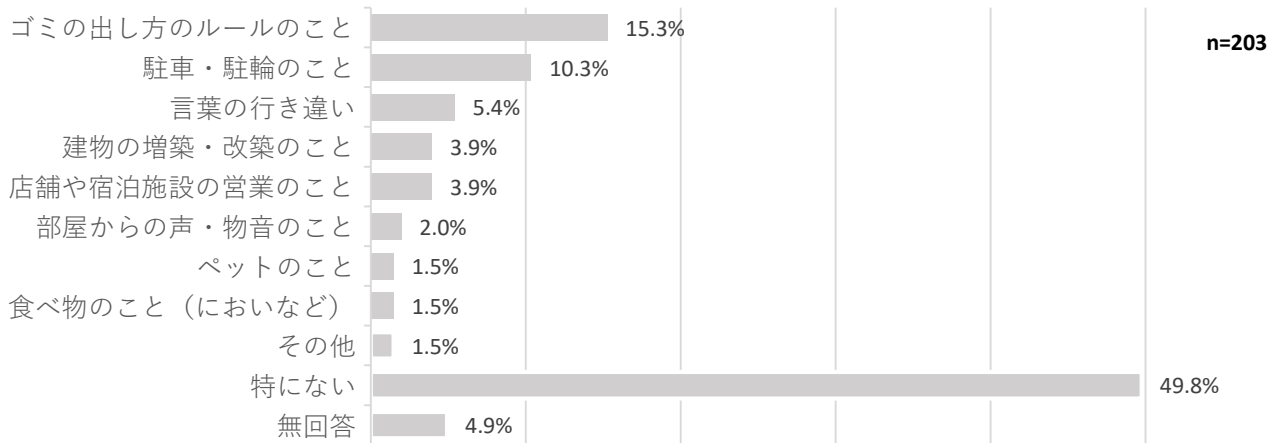
「未加入」が55.4%、「わからない」が22.3%、「加入」は18.1%だった。



#### 4. 日常生活のトラブルについて

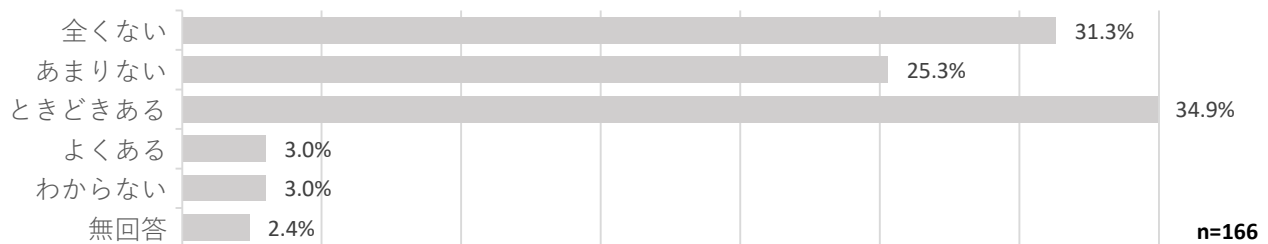
##### Q19 近くに住む日本人とのトラブル経験について（○はいくつでも）

「特にない」を選択したのが49.8%だった。トラブルの内容は「ゴミ出しのルールのこと」が最も多く15.3%だった。次いで「駐車・駐輪のこと」が10.3%、「言葉の行き違い」が5.4%と続き、「建物の増築・改築のこと」と「店舗や宿泊施設の営業のこと」はともに3.9%だった。



##### Q20 日常生活における、日本人から外国人に対する偏見や差別について（○は1つだけ）

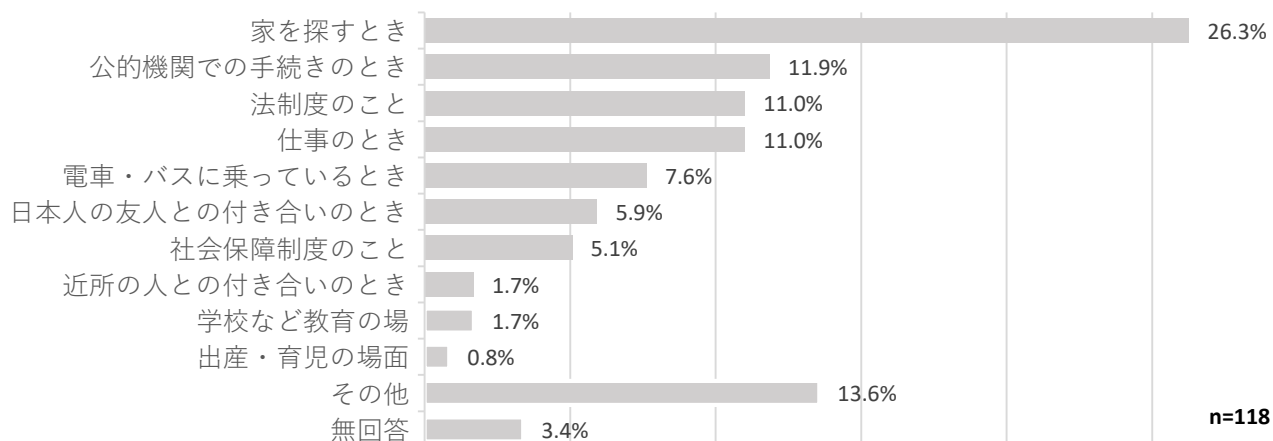
「ときどきある」が34.9%と最も多く、次いで「全くない」が31.3%、「あまりない」が25.3%、「よくある」、「わからない」を選択したのはともに3.0%だった。



Q21は、Q20で「ときどきある」「よくある」と回答した方にうかがいました。

### Q21 偏見や差別を感じた場面について（○はいくつでも）

最も多かったのは「家を探すとき」で26.3%だった。次いで「公的機関での手続きのとき」が11.9%、「法制度のこと」と「仕事のとき」がともに11.0%、「電車・バスに乗っているとき」が7.6%であった。なお、「その他」は13.6%だった。

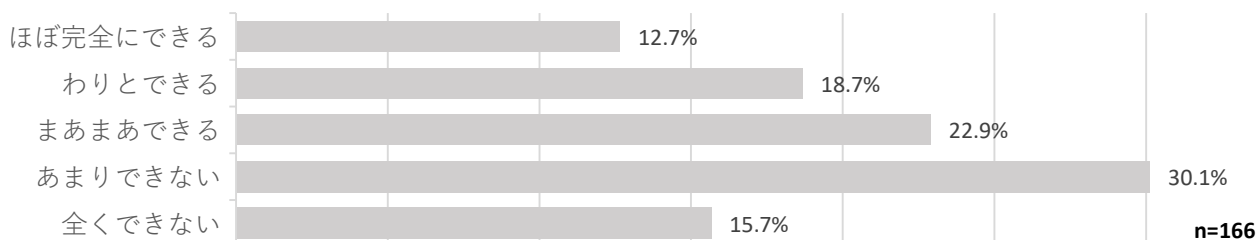


## 5. ことば（日本語学習）について

### Q22 日本語の理解度について

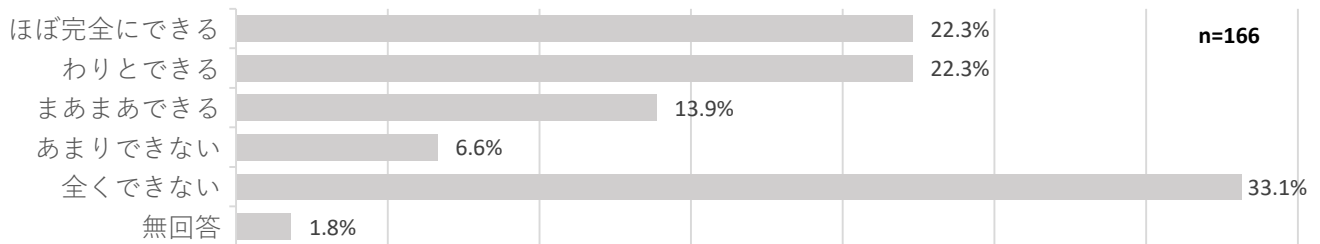
#### Q22-1 日本語での会話について（○は1つだけ）

「あまりできない」が最も多く30.1%で、「まあまあできる」が22.9%、「わりとできる」が18.7%、「全くできない」が15.7%、「ほぼ完全にできる」が12.7%だった。



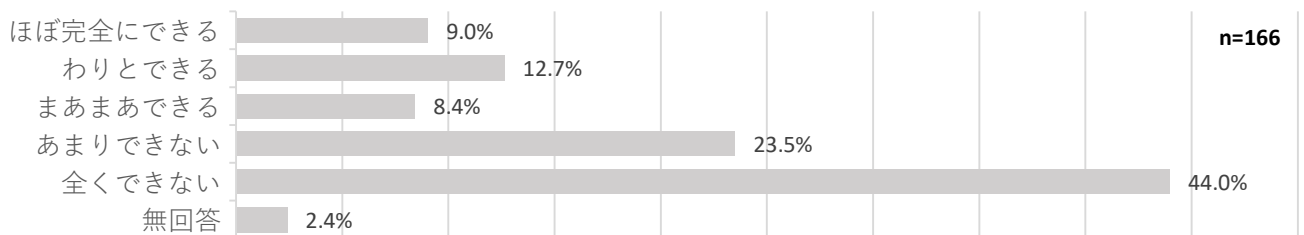
### Q22-2 ひらがな・カタカナの読みについて (○は1つだけ)

「全くできない」が最も多く33.1%で、「ほぼ完全にできる」、「わりとできる」がともに22.3%、「まあまあできる」が13.9%、「あまりできない」が6.6%だった。



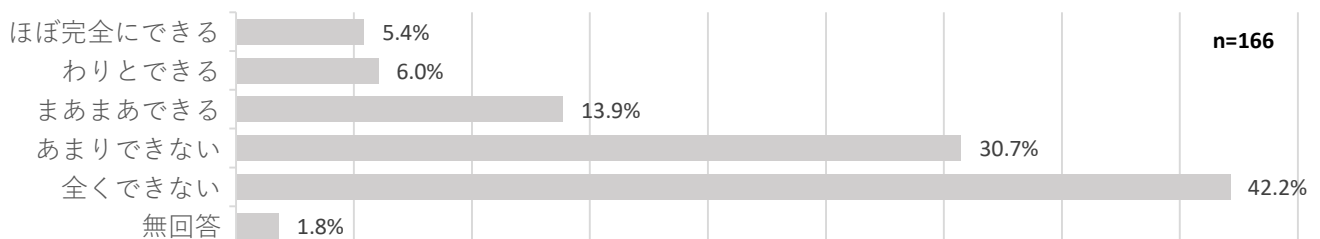
### Q22-3 漢字の読みについて (○は1つだけ)

「全くできない」が最も多く44.0%で、「あまりできない」が23.5%、「わりとできる」が12.7%、「ほぼ完全にできる」が9.0%、「まあまあできる」が8.4%だった。



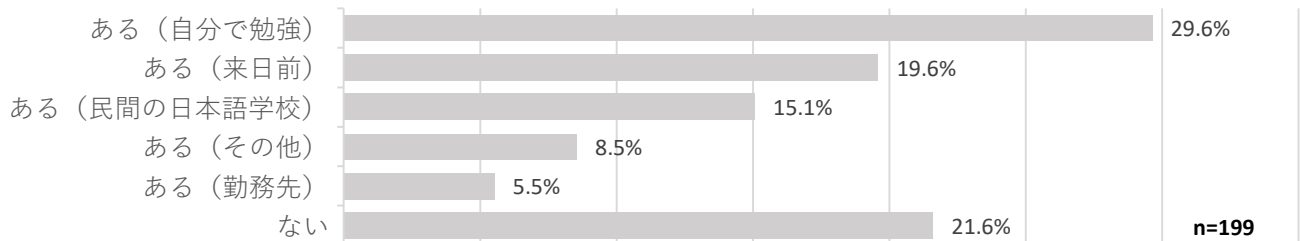
### Q22-4 日本語を書くことについて (○は1つだけ)

「全くできない」が最も多く42.2%で、「あまりできない」が30.7%、「まあまあできる」が13.9%、「わりとできる」が6.0%、「ほぼ完全にできる」が5.4%だった。



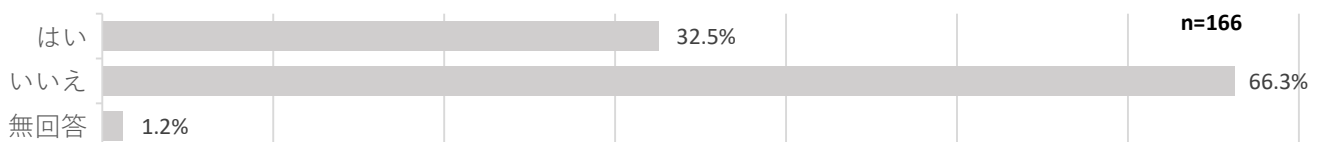
### Q23 日本語の学習経験について (○はいくつでも)

「ある (自分で勉強)」が29.6%、「ある (来日前)」が19.6%、「ある (民間の日本語学校)」が15.1%、「ある (勤務先)」が5.5%だった。「ある (その他)」は8.5%だった。日本語学習経験が「ない」を選択したのは21.6%だった。



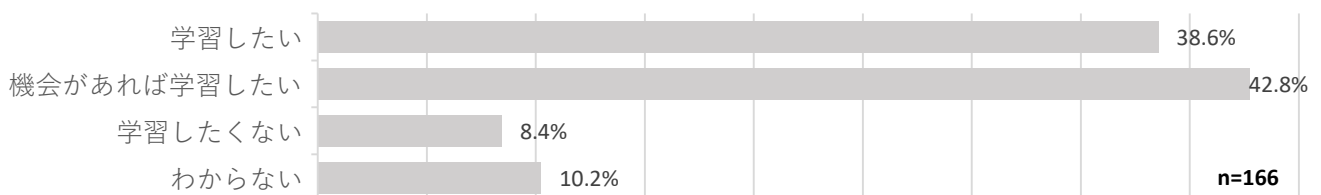
### Q24 現在、日本語を学習していますか (○は1つだけ)

「はい」が32.5%、「いいえ」が66.3%、「無回答」が1.2%だった。



### Q25 今後の日本語学習意向について (○は1つだけ)

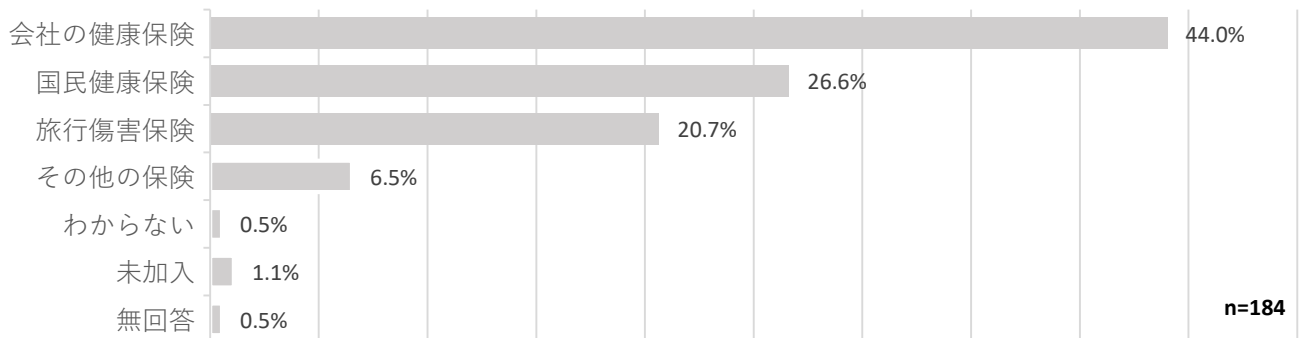
「機会があれば学習したい」を選択したのが42.8%と最も多く、次いで「学習したい」が38.6%、「わからない」を選択したのが10.2%、「学習したくない」は8.4%だった。



## 6. 医療や保険について

### Q26 日本での健康保険の加入状況について (○はいくつでも)

「会社の健康保険」が最も多く44.0%で、「国民健康保険」が26.6%、「旅行傷害保険」が20.7%、「その他の保険」が6.5%となった。なお、「未加入」は1.1%だった。



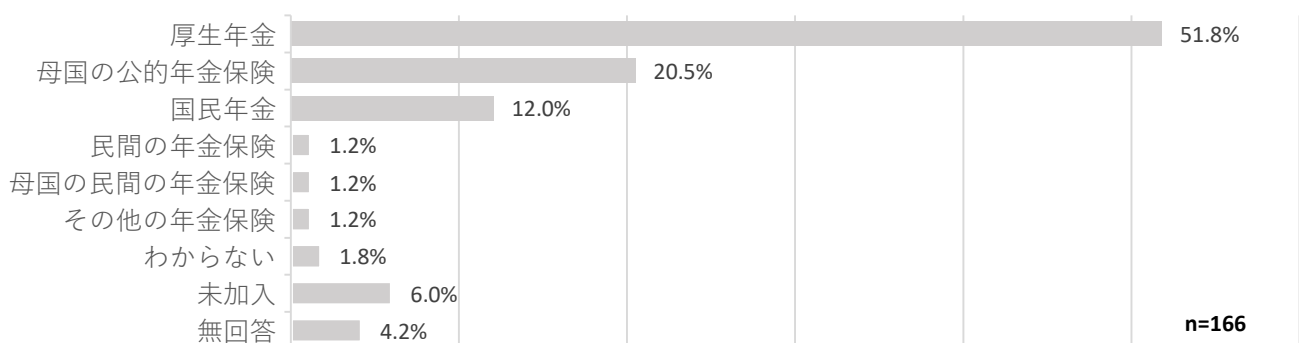
Q27は、Q26で「未加入」と回答した方にうかがいました。

### Q27 健康保険に加入していない理由について (○はいくつでも)

Q26で「未加入」を選択した1.1% (3件) のうち「日本の健康保険の制度がわからない」を選択したのが33.3% (1件) で、「近日帰国予定」を選択したのが66.6% (2件) だった。

### Q28 日本での年金加入状況について (○はいくつでも)

「厚生年金」への加入が最も多く51.8%、次いで「母国の公的年金保険」が20.5%、「国民年金」が12.0%で、「未加入」を選択したのは6.0%だった。



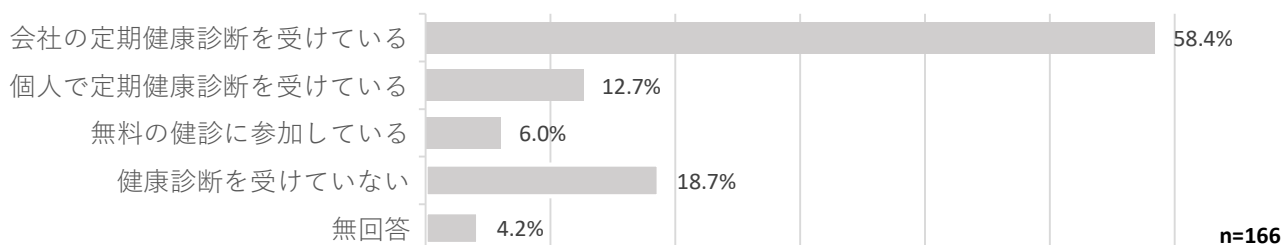
Q29は、Q28で「未加入」と回答した方にうかがいました。

Q29 年金に加入していない理由について（○はいくつでも）

Q28で「未加入」を選択した6.0%（10件）のうち「日本の公的年金制度がわからない」を選択したのが30.0%（3件）で、「年金の受給資格発生までの加入期間が長すぎる」と「金銭的負担が大きい」、「その他」がそれぞれ20.0%（2件）、「近日帰国予定」を選択したのが10.0%（1件）だった。

Q30 定期健康診断を受けていますか（○は1つだけ）

「会社の定期健康診断を受けている」が最も多く58.4%で、「個人で定期健康診断を受けている」が12.7%、「無料の健診に参加している」が6.0%だった。「健康診断を受けていない」を選択したのは18.7%だった。



## 7. 地震など災害時の対応について

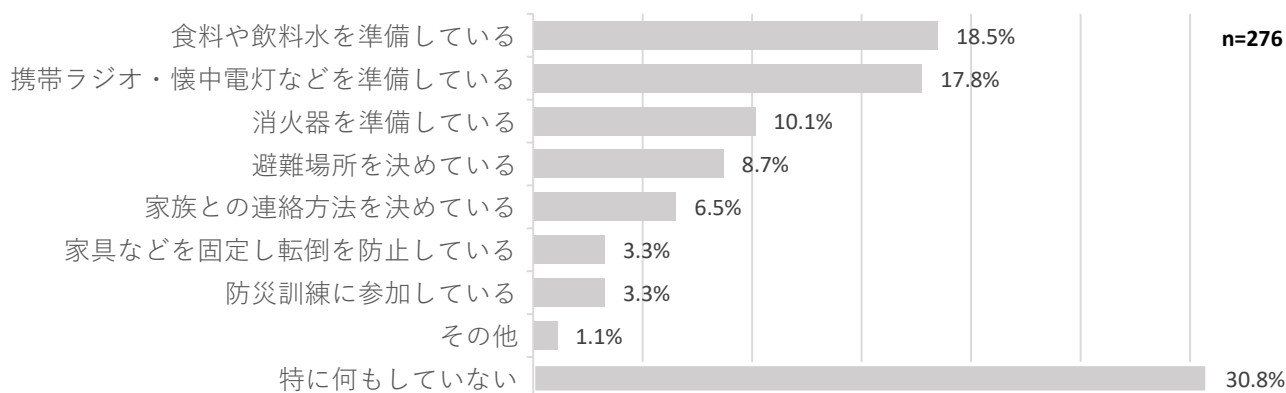
Q31 地震や台風などの災害時の避難場所について（○は1つだけ）

「知っている」を選択したのが31.9%、「知らない」は68.1%だった。



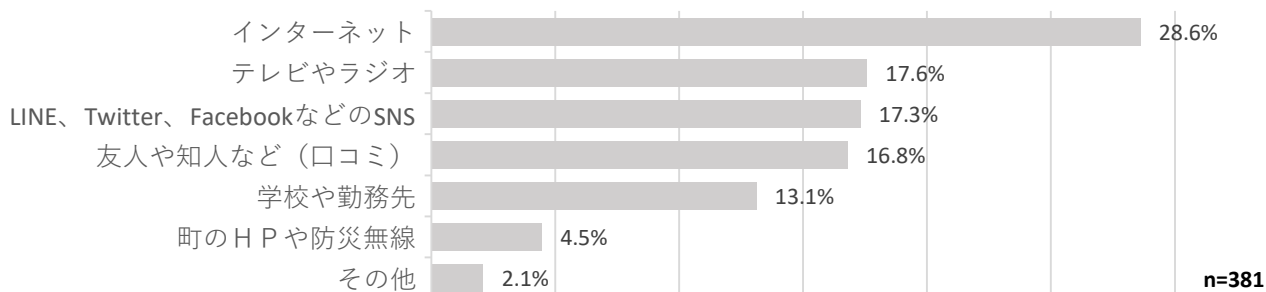
### Q32 災害時の備えについて (○はいくつでも)

「特に何もしていない」が最も多く30.8%、「食料や飲料水を準備している」が18.5%、「携帯ラジオ・懐中電灯などを準備している」が17.8%、「消火器を準備している」が10.1%だった。



### Q33 台風や地震などに関する情報はどこから得ていますか (○はいくつでも)

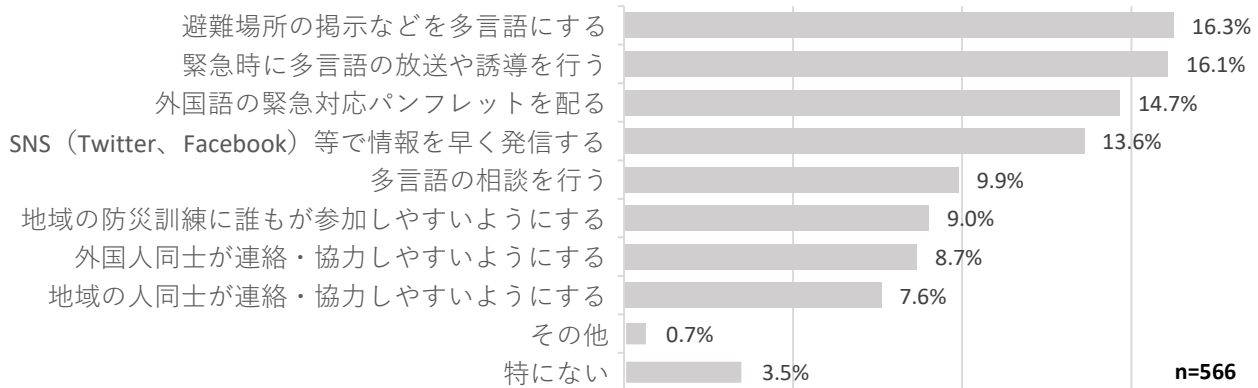
「インターネット」が28.6%と多く、「テレビやラジオ」は17.6%、「LINE、Twitter、FacebookなどのSNS」は17.3%、「友人や知人など(口コミ)」が16.8%、「学校や勤務先」が13.1%、「町のHPや防災無線」は4.5%だった。「その他」は2.1%だった。





### Q34 倶知安町にどのような災害対策をしてほしいですか（○はいくつでも）

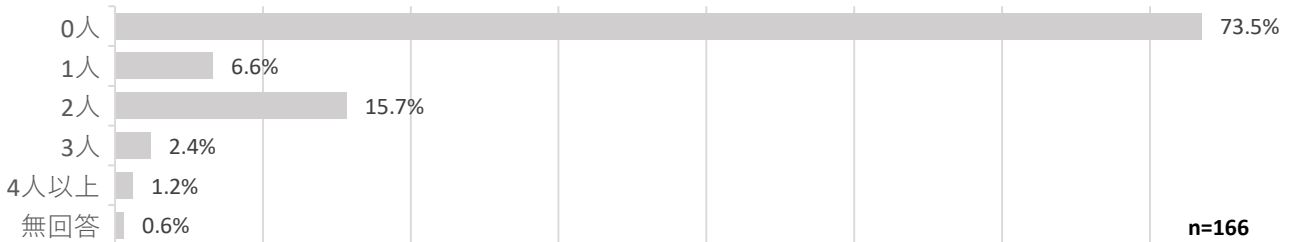
「避難場所の掲示などを多言語にする」が16.3%、「緊急時に多言語の放送や誘導を行う」が16.1%だった。次いで「外国語の緊急対応パンフレットを配る」が14.7%で、「SNSなどで情報を早く発信する」が13.6%、「多言語の相談を行う」が9.9%だった。



## 8. 子どもの教育について

### Q35 子どもの人数を教えてください（○は1つだけ）

「0人」を選択したのが最も多く73.5%、「2人」が15.7%、「1人」が6.6%、「3人」が2.4%、「4人以上」は1.2%だった。



### Q36 子どもの基本的な情報についておたずねします。

子どもが3人以上いる場合は上の2人についてお答えください。

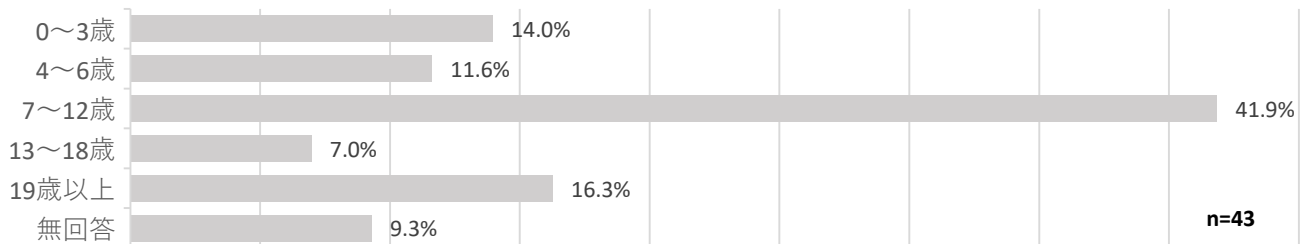
#### Q36-1 一番上の子どもの性別について（○は1つだけ）

1番上の子どもの性別は「女性」が46.5%、「男性」が48.8%、「無回答」が4.7%だった。



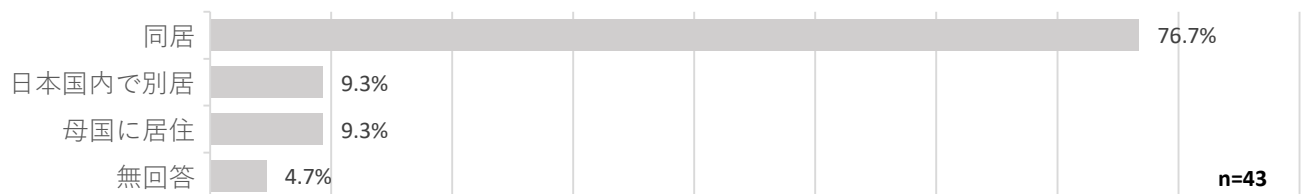
### Q36-2 1番上の子どもの年齢について（○は1つだけ）

1番上の子どもの年齢は「7～12歳」が41.9%と最も多く、「19歳以上」が16.3%、「0～3歳」が14.0%、「4～6歳」が11.6%、「13～18歳」が7.0%、「無回答」は9.3%だった。



### Q36-3 同居・別居について（1番上の子ども）（○は1つだけ）

「同居」を選択した割合が最も多く76.7%だった。「日本国内で別居」と「母国に居住」を選択したのはともに9.3%で、「無回答」は4.7%だった。



### Q36-4 1番上の子どもの出生地について（○は1つだけ）

「日本」で出生を選択したのは48.8%、「母国」での出生は37.2%、「その他」を選択したのは2.3%だった。なお「無回答」が11.6%だった。



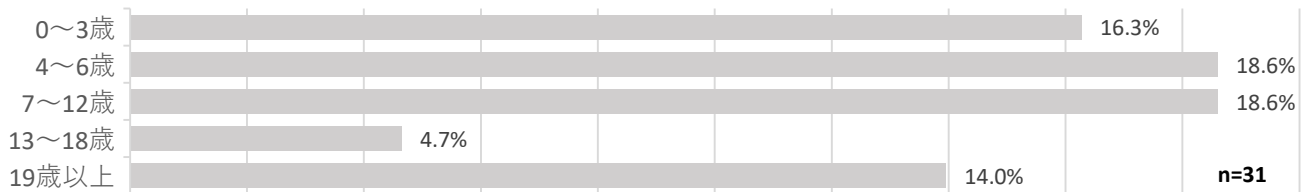
### Q36-5 上から2番目の子どもの性別について（○は1つだけ）

上から2番目の子どもの性別は「女性」が38.7%、「男性」が61.3%だった。



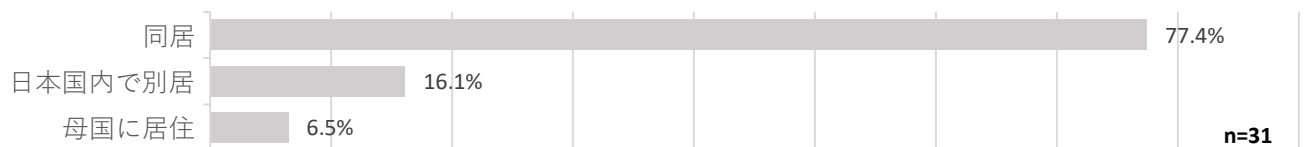
### Q36-6 上から2番目の子どもの年齢について (○は1つだけ)

上から2番目の子どもの年齢は「4～6歳」、「7～12歳」がともに18.6%と多く、「0～3歳」が16.3%、「19歳以上」が14.0%、「13～18歳」が4.7%だった。



### Q36-7 同居・別居について (上から2番目の子ども) (○は1つだけ)

「同居」を選択した割合が最も多く77.4%だった。「日本国内で別居」は16.1%、「母国に居住」を選択したのはともに6.5%だった。



### Q36-8 上から2番目の子どもの出生地について (○は1つだけ)

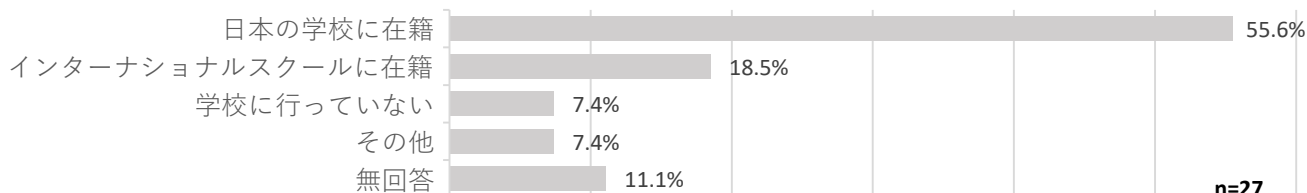
「日本」を選択したのは58.1%、「母国」での出生は16.1%、「その他」を選択したのは6.5%だった。なお「無回答」が19.4%だった。



Q37～Q39は、6歳～14歳の子どもがいる方におたずねします。

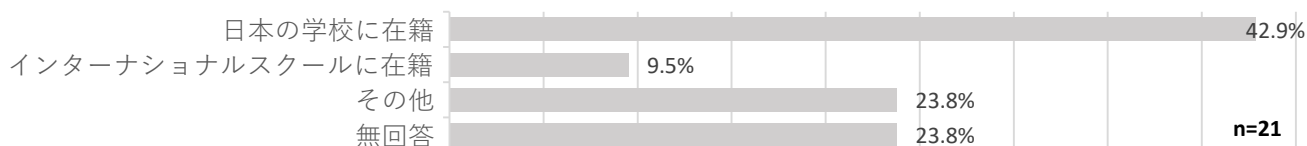
Q37-1 1番上の子ども（6歳～14歳）の就学状況について（○はひとつだけ）

「日本の学校に在籍」が最も多く55.6%だった。「インターナショナルスクールに在籍」が18.5%、「学校に行っていない」と「その他」はともに7.4%、「無回答」は11.1%だった。



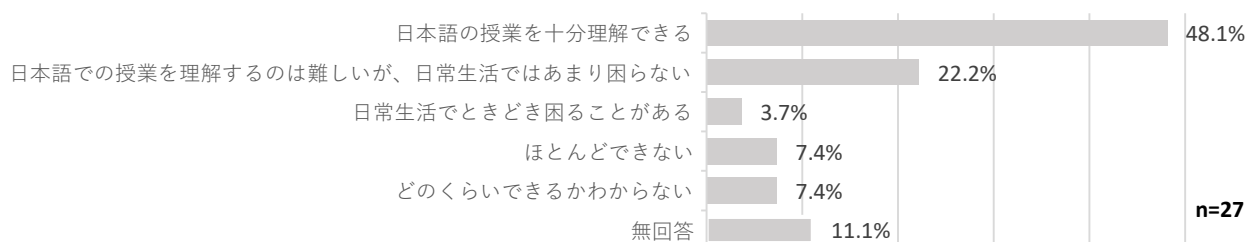
Q37-2 上から2番目の子ども（6歳～14歳）の就学状況について（○はひとつだけ）

「日本の学校に在籍」が最も多く42.9%だった。「インターナショナルスクールに在籍」が9.5%、「その他」と「無回答」はともに23.8%だった。



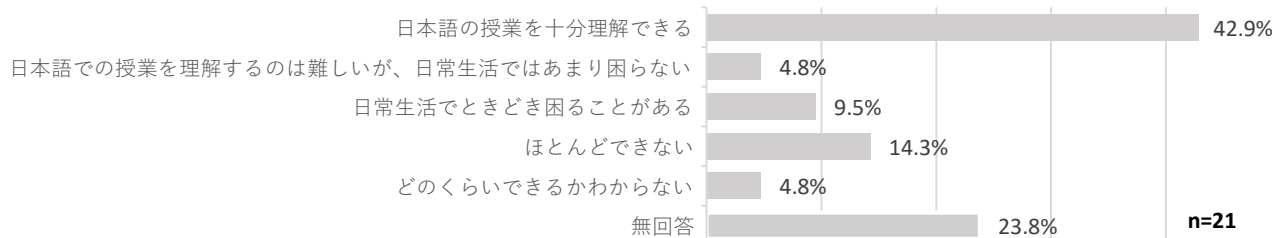
Q38-1 1番上の子ども（6歳～14歳）の日本語理解度について（○は1つだけ）

「日本語を十分理解できる」が48.1%、「授業を理解するのは難しいが、日常生活では困らない」が22.2%、「ほとんどできない」と「どのくらいできるかわからない」はともに7.4%、「日常生活でときどき困ることがある」が3.7%、「無回答」は11.1%だった。



### Q38-2 上から2番目の子ども（6歳～14歳）の日本語理解度について（○は1つだけ）

「日本語を十分理解できる」が42.9%、「ほとんどできない」が14.3%、「日常生活でときどき困ることがある」が9.5%、「授業を理解するのは難しいが日常生活では困らない」と「どのくらいできるかわからない」はともに4.8%、「無回答」は23.8%だった。



### Q39 子どもの中学卒業後の進路の希望について（○は1つだけ）

「日本の高校に進学させたい」が最も多く33.3%だった。「帰国させて母国に進学させたい」が23.3%、「その他」が30.0%、「無回答」は13.3%だった。

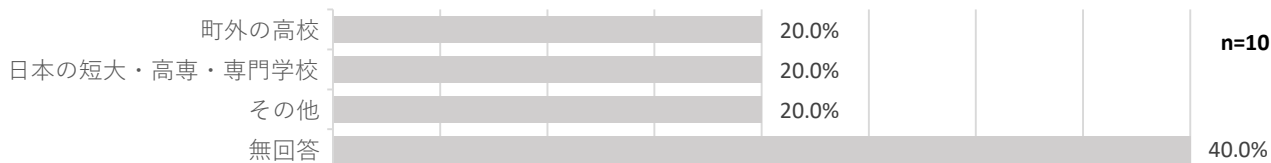


Q40は、15歳以上の子どもがいる方におうかがいします。

### Q40-1 1番上の子ども（15歳以上）の就学状況について（○は1つだけ）

また、既に卒業した子供は、最後に在籍した学校を教えてください。

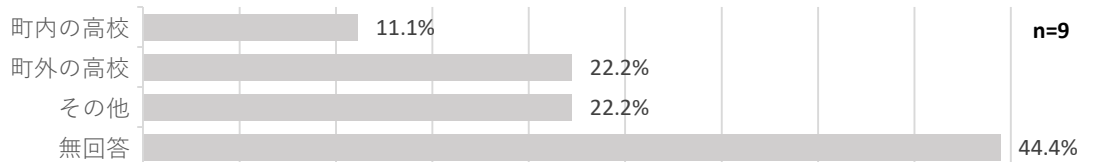
「町外の高校」、「日本の短大・高専・専門学校」、「その他」を選択したのは20.0%だった。なお、「その他」の記載内容は全て「母国の大学」だった。



### Q40-2 上から2番目の子ども（15歳以上）の就学状況について（○は1つだけ）

また、既に卒業した子供は、最後に在籍した学校を教えてください。

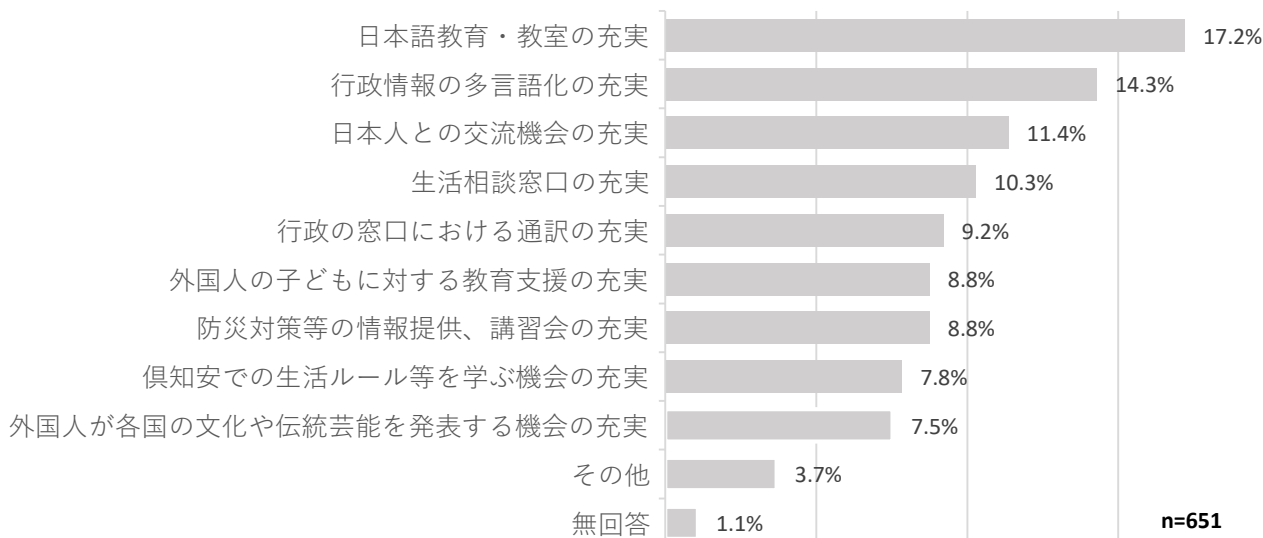
「町外の高校」と「その他」はともに22.2%だった。「町内の高校」は11.1%だった。なお、その他の記載内容は全て「札幌の日本語学校」だった。



## 9. 多文化共生のまちづくりについて

### Q41 町は今後「多文化共生のまちづくり」のために、どのようなことを進めるべきだと思いますか（○はいくつでも）

最も多かったのは「日本語教育・教室の充実」で17.2%だった。次いで「行政情報の多言語化の充実」が14.3%、「日本人との交流機会の充実」が11.4%、「生活相談窓口の充実」が10.3%、「行政の窓口における通訳の充実」が9.2%だった。



外国籍住民向けアンケート  
各設問における自由記載・意見等

### Q3 国籍について

インドネシア、アメリカ、ブラジル、香港、朝鮮、ナイジェリア、スロベニア、ポーランド、エクアドル、タイ、ドイツ、スイス、ウズベキスタン、オーストリア、ベトナム、イタリア、ルーマニア、アイルランド、アルゼンチン、スリランカ

### Q4 在留資格について

特別永住者、一年の労働ビザ、スポンサーシップ、教育、難民ビザ

### Q9 働いている会社の種類について

スキーリゾート、サービス業、土木設計、不動産管理、スノースポーツ、会計士、ガイド、建設業、宿泊施設のプロジェクトマネージャー、開発関係、娯楽業、ビル管理、コンサルティング、クリニック、アクティビティ、スキースクール、スノースポーツ教育

### Q10 現在、一緒に住んでいる人について

一人暮らし、同僚、シェアハウス、会社の寮、支援団体

### Q14 あなたや家族が生活で困っていることや不満なことについて

- ・ショッピングモールが一つもない
- ・ちょっと田舎
- ・買い物の不便さ
- ・ファストフード店がない
- ・バス。乗り換え情報を探すのが難しい
- ・都市計画
- ・公園がもっと必要。ひらふには良い公園が全くない。ここは本当に「国際的リゾート」なのか
- ・エンターテインメント
- ・ごみの事
- ・駐車場
- ・公共交通
- ・役場や議会
- ・銀行のATMが週末17時過ぎると使えない
- ・公共のスケートボードパークがない
- ・子供が楽しめるアクティビティやクラス
- ・政府（町）や銀行のテクノロジーの欠如
- ・様々な機関（政府、銀行、学校など）が昔ながらで時間がかかります
- ・新しい宿泊税収入がうまく使われるか疑わしいです



- ・病院と健康サービスの構造がわかりにくい
- ・自分の国ではないから
- ・倶知安の土地の値段がどんどん高くなっていて、施工業者を探すのも難しい
- ・学校の英語の授業が簡単すぎる
- ・私は外国人であることを理由に賃貸と購入を断られました。私の国では違法です

**Q16 付き合いが全くない理由について**

- ・ごみの捨て方に怒っているから
- ・近所に人が住んでいない

**Q17 生活で困っていることの相談先について**

家族、日本在住の親戚、夫、雇用主、(会社の)人事課、配偶者、上司、会社のサポート、ぬくぬく、日本にいる家族、教会、札幌の弁護士、友人どの国でも、パートナー、問題による

**Q18 町内会の加入状況について**

- ・私が自宅にいても一度も町内会への加入を勧められたことはありませんが、職場にはいつも町内会の担当の男性が来て加入について話していきます
- ・住んでいるところに町内会が存在しているのかわからない
- ・町内会に加入はしたいが、町内会についてわからない

**Q19 近くに住む日本人とのトラブル経験について**

- ・除雪の事で
- ・日本人はルールを守らない
- ・近所の人階段の下に雪をためるので、階段を下りる時にはその雪を除雪しなければなりません。彼らに日本語で話してもこれを続けられました
- ・全ての事は隣人が原因のトラブルで、私達が原因ではない

**Q21 偏見や差別を感じた場面について**

- ・銀行で
- ・金融機関との取引や自動車保険のアドバイスを受ける時
- ・お店で何かを質問する時、時々店員が私を助けたくないように感じる
- ・クレジットカードの申し込み
- ・仕事、公的機関
- ・コンビニエンスストア
- ・私が沢山の友人(大きなグループで)と例えば湖などに行くと、年配の日本人の中にはそれをあまりよく思わないことがある

- ・温泉、お店、レストラン
- ・wifi等のサービスを申し込んだ時
- ・年金システム
- ・お店で
- ・公共の場で日本人と交流する時（時々）
- ・高齢の方から
- ・お店、レストラン、仕事上での取引等で
- ・スーパー
- ・色々な場所
- ・(不動産会社で) 私の日本人の友達が家賃について聞いても教えてくれず、会社には英語を話せる人がいないと断られました。彼らは私達に役場に行くように言ったので、役場に行きました。でも役場では会社に電話すること以外は他に何もできないと言われました
- ・温泉で他の利用者から私は歓迎されていないなと感じた。そうはいつでもそこへ行ったのは一度だけある

### **Q23 日本語の学習経験について**

- ・日本生まれなので日本人と同じ内容の学習
- ・独学で勉強を始めた
- ・仕事を通じての家庭教師
- ・小学校5年生まで日本の学校で学んだ
- ・ニセコ町民センター
- ・HIS(北海道インターナショナルスクール)
- ・高校
- ・個人レッスン
- ・大学
- ・高校と大学
- ・北海道大学
- ・母国の大学と日本大学
- ・北大の観光学

### **Q25 今後の日本語学習意向について**

- ・ニセコ町で
- ・勉強したいが倶知安には日本語の先生がいない

### **Q26 日本での健康保険の加入状況について**

- ・個人の国際保険

**Q29 年金に加入していない理由について**

- ・ 留学ビザなので
- ・ 配偶者ビザなので

**Q32 災害時の備えについて**

- ・ 燃料タンク、木
- ・ 母国で地震の経験あり
- ・ 避難用リュック

**Q33 台風や地震などに関する情報はどこから得ていますか**

- ・ yahooアプリ
- ・ 携帯の緊急通報
- ・ 配偶者
- ・ 公共放送
- ・ 電話
- ・ apps
- ・ アプリ

**Q34 倶知安町にどのような災害対策をしてほしいですか**

- ・ 指定の避難場所はどこですか
- ・ 日本語が堪能であること
- ・ 会社に自然災害時の対応について教えてくれるように話す

**Q37-1 1番上の子ども（6歳～14歳）の就学状況について**

- ・ 母国の大学
- ・ サポートが必要

**Q37-2 上から2番目の子ども（6歳～14歳）の就学状況について**

- ・ オーストラリアの学校
- ・ 札幌の日本語学校
- ・ 母国の大学
- ・ 幼稚園

**Q39 子どもの中学卒業後の進路の希望について**

- ・ 日本の学校以外に行かせたい。母国でなくてもよい
- ・ まだわからない

- ・まだわからないが、日本の高校ではない
- ・大学卒業後に仕事を見つけてほしい
- ・子供には大学卒業後仕事を探してほしい
- ・学校のサポートが必要
- ・IBスクールが倶知安にあれば通わせたいが、無いのなら別のオプションも考える

**Q40-1 1番上の子ども（15歳以上）の就学状況について**

また、既に卒業した子供は、最後に在籍した学校を教えてください。

- ・母国の大学

**Q40-2 上から2番目の子ども（15歳以上）の就学状況について**

また、既に卒業した子供は、最後に在籍した学校を教えてください。

- ・札幌の日本語学校

**Q41 町は今後「多文化共生のまちづくり」のために、どのようなことを進めるべきだと思いますか**

- ・住民税の課税システムや国保についての英語での説明文書
- ・外人ビザ支援、場所、方法とか
- ・夏のバスの運行を増やしてほしい
- ・ファストフード店
- ・倶知安町は喜んで私達から税金をとるが、私達には断ることもお金がどのように使われるかを投票で決めることもできない
- ・公費出資によるインターナショナルな高校
- ・個人的には倶知安でアパートを探したことはないが、外国人には探すのがとても難しいと聞く。もっとサポートや賃貸可能な住宅があれば良い
- ・日本に住み続けるには互いに協力や理解、助け合える友人との付き合いや、文化、食、衣、交通ルール、法令等を守り交流することが大事だと思う
- ・教育は大きな弱点だ。良い教育を求めて家族で引越してしまうことで私達は良い人材を失っている。教育はもっと良く出来るはずなのに、そのせいで私達は良い人材を惹きつける機会を失ってしまう

提案1.倶知安IBスクールを町でサポートする。・公費によるバイリンガルプログラム。・中学校から始める。・地元の人が誇りを持ち、またここで働く人達を惹きつけるような高校を作る。生徒が地元に残るような高校。地元の子供達に国際経済の中で働くためのツールを提供する学校

提案2.樺山にバイリンガルな学校を作る。半分の子供がすでに英語を話せる。日本人夫婦の子供の英語のレベルを上げるようにこの機会を利用する。そして樺山を倶知安の他のプログラムのテストの場所として利用する

- ・日本の運転免許証がない人でも利用できるような公共交通の充実
- ・(地元の人々に) 外国人をもっと受け入れるように勧める。彼らの態度が変わらなければ何も改善されない
- ・倶知安にインターナショナルスクールがあれば町の利益につながると思う
- ・倶知安の町と文化は外国の影響がミックスされていて日本の中でもユニークだ。私達の意見を聞いてくれてありがとう
- ・雇用機会、小規模ビジネスの機会、手頃な価格の住宅を提供すれば、倶知安を若い日本人と外国人の家族に売り込むのに役立ちます。家族(日本人と外国人)が自然に一緒に使用する、より良いコミュニティサービスが必要です(プールやスケートリンク)
- ・子供の教育にはサポートが必要
- ・24時間営業の無料wifiスポット
- ・外国人にもアパートを借りれるようにすべきだ。ほとんどの大家は日本人にしか貸さない
- ・言語をお互いに教え合う
- ・相談窓口の代わりに、電話通訳サービスにより外国人の登録や法的な支援を提供する。これは長野市で行われたサービスで、外国人にとっては非常に価値があり、英語を話す日本人と外国人が直接話すことができた
- ・ホテルが二酸化炭素排出量を削減したり、ヒラフの交通量を削減できるように、より良い公共交通を提供する
- ・ここは日本です。観光客や短期滞在労働者のための情報はバイリンガルであるべきですが、私は役場や学校のお知らせなどはバイリンガルであることを期待していません。ただし、人口の増加に合わせて、保育所、幼稚園、学校、学童などがあります。地域で暮らす新しい家族のための英語記載の文書や通訳の支援はありがたいですが、期待されていません。英語の情報については、英語が正しくない事があるからです。地元で暮らす外国人の中には、他の人のために英語の情報を修正するボランティアをしてくれる人もいます。私ならします
- ・生活の利便性を充実したいです。公共交通の充実。倶知安⇄ヒラフ
- ・外国人のための住宅支援。ほとんどの大家が外国人に貸すことを拒否する。外国人に優しい民間住宅は高くて住めない
- ・今のところ倶知安町は良くやっていると思うが、英語のサポートを始めたらもっと良くなると思う。税務署には役場と同じように英語を話す職員がいてとても助かった。役場の英語を話す職員も親切で英語が上手なのでとても助かっている。倶知安町には長く住みたいと思っているが、物価が高くなってきている。そのため私達が退職する頃には他の場所を探すことになるかもしれない
- ・倶知安駅の改装、システムが古すぎる

- ・子供が冬の間に来ることが少ない。倶知安町は、子供たちがスキー場に行くための交通費に補助金を出すべきだ。子供達のためにもっとたくさんの施設がほしい。町営のスケートボードパークなど。アウトドアアドベンチャーライフスタイルを促進する町には、これらの施設が必要だ。倶知安にはこれらの施設がほんの少しあるだけ、あるいは全くないと言ってもいい。民間の施設があるだけだ。倶知安町がこれらの施設を提供せずにアウトドアアドベンチャーツーリズムの人々を支援していると主張するのは間違っている。倶知安町は、実際にここに住んでいない開発業者のみを支援しているように感じる。税金を払い地域社会の一員である地元の人々の要望に応えていないように感じる
- ・冬期のためにもっとタクシー会社を増やしてほしい
- ・とてもおいしい地元食材（果物や野菜など）をもっとPRしてほしい。
- ・もし可能であるならば倶知安の医療及び教育システムについて、外国人の生活がより楽で長いものになるように、より多くの英語サービスを提供するべきである
- ・日本語教育・教室の充実について：ニセコ町のように無料でやってほしい
- ・倶知安町で日本語教室を提供してくれたらニセコ町まで行かなくても良い
- ・日本語教育・教室の充実について：これが充実したら感謝します
- ・このアンケートには実際に意見を述べるスペースがない。倶知安町の設備はひどい。遊歩道も、サイクリングロードも無いし、プールは非常に小さい。公園はとても小さく状態も悪い。保育所はとても良いが、それ以外では子供にとって日本語や英語で出来ることが少ない。役場にはたくさん人がいるのに手続きに非常に時間がかかる。世界中の人々からの多くの素晴らしいアイデアをもらえる国際的な町として、それは恥ずかしいことだ
- ・きちんとした日本語学校がほしい。特に夏場で、外国人が仕事終わりの毎日2～3時間（少なくとも2時間半）、半年程度通えて良心的な価格の学校。私は札幌で日本語アカデミーに通ったことがあり、そこでの教育システムは素晴らしかった。しかし仕事のために戻らなくてはならなかったので6週間以上は通えなかった。倶知安に日本語学校がほしいです。意見を聞いてくれてありがとう